芸振

大分県芸術文化振興会議会報

No. 42　54. 3

発行所・大分市府内町　県教育庁文化課内　県芸術文化振興会議事務局
発行人・挾　間　正　年　編集人・浅　田　弘　明

「国際児童年」にあたって

大分県児童文化研究会長　三河尻　修　二

本年（1979）は、「児童の権利に関する宣言」が国際連合で採択されてから、20周年目にあたります。そこで、第31回国連総会で、本年を「国際児童年」と宣言しました。そして、世界各国で「国際児童年」にふさわしい事業計画がなされ、実施されようとしています。

日本でも、

1　国内の子どもの地位の向上と、子どもに対する諸施策の改善

2　開発途上国の子どもの現状に対する理解を増進し、それらの子どもに援助の手をさしのべる。

の二つを活動目標として設定し、総理府をはじめ、外務・文部・厚生・労働・農林水産・運輸の各省で、民間では日本国連協会・日本ユネスコ協会連盟・日本ユニセフ協会・全国社会福祉協議会・日本青少年文化センター等、多くの団体で、多彩な事業が計画されています。それを受けて、県や市町村でも「国際児童年」にふさわしい事業がなされようとしています。

県芸術祭では、閉幕行事に児童文化に関するものを取上げることに決定しました。県児童文化研究会が中心となり、多くの芸術関係団体のご協力を得て、「国際児童年」にふさわしい行事にしたいと考えています。

しかし、これだけでは充分子どもの事を考えているとはいえないと思います。「明日に生きる子どもたちのために」私たちはできるかぎりの事をしてやらなければなりません。教育に、福祉に、文化に、そして子どもを取りまく環境に対して、「子どもの幸せを」を考え、それぞれの立場で協力しなければなりません。

20年前、児童権利宣言第７条で、「人類は児童に対して最善のものを与える義務を負うものである」と高らかに宣言しています。

私たち大分県芸術文化振興会議の会員はそれぞれの団体の本年度の事業計画の中に、「子どもに与える最善のもの」として、音楽会だとか、美術展だとか、演劇会などを用意すべきだと思います。それが、私たち大分県芸術文化振興会議の会員としてできる「国際児童年」への取り組みだと思います。

それと同時に、私たちは大同団結して「明日に生きる子どもたちの幸せ」のため、児童文化会館の設置を県に働きかけるとか、児童の広場や児童図書館の増設を市町村に呼びかけるとかいう運動をおし進めることも大事なことと思います。

「国際児童年」が、から念仏におわらないよう、大分県芸術文化振興会議としても力のかぎり取組んで頂きたいものです。

手作りの文化と小刀

別府大学講師　荒　金　　学

子供のもつ小刀が、これまで２回、社会問題になった。

浅沼事件による〃刃物禁止運動〃。そして最近の〃小刀を使えない子〃の出現である。

昭和35年、刃ものを持たない運動は、全国にひろがった。教育委員会の指導もあって、先生たちは、子供から〃刃狩り〃をした。

学校にもってくることは勿論、禁止。家にあるものまで取りあげ、土の中に埋める熱心な先生もいた。

小刀と人命軽視との結びつきは、あまりにも短絡的な考え方であった。

手作りの文化に果たしてきた、小刀の大きな役割をもっと理解していたら、刃物禁止運動は、安易にひろがらなかったであろう。せめて、賛否の議論があったはずである。

子供たちは、それまで小刀で、手作りの文化を残してきた。

竹を素材にした遊び道具だけでも、70種類をこえる。

紙鉄砲、竹とんぼ、風車、ブンブン、弓、竹馬……数えあげればきりがない。

竹の種類も多い。淡竹（ハチク）、女竹、ま竹、すず竹など遊び道具によって選び、弾力、ねばり、表皮のすべり、節の長さ、肉の厚み、その竹のもつ性質をたくみに生かして遊び道具を作る。

より高く、より遠く飛ぶため、よりきれいな音をだすため、小刃の刃に全神経を集めるのである。

子供たちは、失敗をかさねながら、産みだすために苦しみに耐え、そして、喜びを味わう。

プラスチックモデルのように作るための設計図がない。一本の竹筒から、必要な道具を作りださなければならない。

無から有を産むために、構成力、創造力が要求される。しかし、作りあげた道具には、個性があり、無から有を産む故の夢がある。

手づくりの道具には、プラスチック玩具のような華（はなや）かさはない。

しかし、素朴な美しさと暖かさがあり、道具への愛着が感じられる。また、おどけた楽しさもある。

ノコ、キリ、ナタなどの道具を使ったが、やはり小刀が主役であった。高くあげる竹とんぼを作るのに羽根をうすく、ていねいにけずり、小刀の切れ味をたがいにためしあった。親指ほどの女竹を一気に切り落とす。相手は、より太い竹にいどむ。

１本の小刀を大切にし、念入りに砥石でといだ。波のように光る刃わたりを見ながらゆっくり砥いだ。

小刀は、数多くの遊び道具を産みだした。

子供たちは、小刀を凶器などとは夢にも思っていなかった。

刃物禁止運動がどれだけ人命軽視の風潮に役立ったかは疑問だった。むしろ、小刀を使えない子供をつくり、手作りの文化をも滅ぼしたのではないだろうか。

国際児童年によせて

おおらかな子供に

大分合同新聞文化部・参事
帆足清一

小学校のころ、帰りによく盗みをやったことを思い出す。

浜に干してあるイリコをあさったり、山道を通ってモモやビワなどのなりものを失敬したり、蓮畑にはいって蓮の実をとったり、大きな蓮の葉の下から出ると、畑の持ち主が待ち構えていて、蓮根を踏み折るといって叱られた。こんな類いのワルサは年配の方なら型は違っても大なり小なり経験されていることでしょう。今だったらこんなことをしたら一体どうなるだろう。

こんな話を持ち出したのは別に盗みを奨励するつもりでは毛頭ない。もちろんそんな時も叱られはしたが、タシナメル程度で、子供のいたずらとして見逃されるおおらかな時代だったということである。子供の冒険心、好奇心を理解してくれたからだろうか。あるいは自分も身に覚えがあるから寛大になれたのだろうか。いずれにしてもこんな中からも是非善悪の別を学んだものです。もっとも店の品を盗むことはなかったが。

「ゆとりある教育」ではないが、あの頃の大人の余裕は一体いまどうなったのだろうか。みんなセカセカ、ピリピリしている。これはどうも生活が厳しくなったというだけの理由ではなく、心の問題のように思えて仕方がない。

その心の問題だが、最近の子供の自殺のニュースを聞いて商品の宣伝文句ではないが「腕白でもいいからたくましく」育てる点に、何か一つ欠けているのではないかと思う。ほんとに些細な原因で自殺している。背景にもっと大きな原因があるのかも知れないが、近視眼的なことに目がくらんで子供を育てると、本当に大事な子供という宝を取り落とし兼ねない。たくましくとはいろんな価値観にバランスがとれ、物事を幅広く見るということだ。

ＮＨＫテレビに出る国際児童年のコマーシャルの子供はのびやかで、日本の子供と違う健康さに溢れているように見える。フィーリング時代の子供を育てるのは難しいが、子供を可愛がるとはどういうことか、もう一度考えてみよう。

次代を担う子どもたち

大分県ユネスコ協会連盟理事
浜小路悦生

国際児童年は、児童権利宣言採択20周年を記念して第31回国連総会で決議されたものであるが、その趣旨はユネスコ運動と密接なかかわりをもっていることは言うまでもない。

第34回ユネスコ運動全国大会（53年10月、岐阜市）のサブテーマミ明日に生きる子どもたちのために〃はその具体例である。これは国際児童年の先取りであり、それに向っての準備活動でもあるといえよう。さらには、「世界ユネスコクラブ会議」（53年４月、パリ）でのムボウ・ユネスコ事務局長のことばの中にもうかがえる。厳しい世界環境の中で「次代を担う子どもたちが希望をもって生きていける世界をいかにして創造していくか、それはまさしく現代を生きる私共大人の責任と言わねばなりません。今こそ、子どもたちと共に、幸せに生きられる平和な明日を創造するために世界中のすべての人々が連帯すること、これこそがミ国際児童年ミの趣旨でありましょう」とユネスコ運動と国際児童年のかかわりを述べている。ユネスコ運動が国際児童年を契機としてミ子どもたちミにその視点を強くおきつつあることは明白である。

希望のもてる平和な世界をつくっていくには次代を担う子どもたちの心の中に〃平和のとりで〃を築いていくことが必要であろう。芸術文化活動はそのことに大きく貢献している。芸術文化活動を通しての豊かな情操の育成は、ハーバード・リードの「教育は芸術による教育でなければならない」とのことばを引用するまでもなく、平和的態度形成に欠かせないものである。

国際児童年を一つのきっかけとして、あらゆる団体が相互に連携をとりながら、児童権利宣言にある「児童が幸福な生活」を送りうるためには、今われわれは何をしなければならないのかを真剣に考える必要があろう。国際児童年は、そうなってこそはじめて意義のあるものとなるのである。

故 藤沼恵先生の10周忌によせて

故 藤沼恵先生略歴

1898年　姫路で牧師の家庭に生まれる
1917年　東京音楽学校ピアノ科入学、
　　母の病気のため中退
1920年　東京女子音楽園に入学
1922年　同校卒業
1923年　福岡県大牟田高等女学校音楽教師として赴任
1932年　大分第一高等女学校音楽教師として赴任、後
　　現上野丘高校に至る
1950年　市民合唱団ウイステリア・コール結成
1958年　音楽部門初の大分合同新聞文化賞受賞
1964年　第１回大分県芸術祭出演
1967年　病に倒れる
1969年　11月24日永眠された

「そう、歌ってごらんなさい」「ううん、そう、そう、もっとお腹から、うん、そうねえ」、小さな、でも横に大きくビヤダルのような体で、いつも上を向いてにこにこなさってた笑顔の先生。先生が逝かれてはや10年の歳月が流れました。先生の教え子達は、音楽関係をはじめ、いろんな分野で活躍していますが、今春その教え子達が二つの追悼演奏会を計画しています。練習の合間に先生のお人柄について思い出を語って頂きましたが、紙幅等の都合で次の通り要約させて頂きましたのでご了承下さい。

＜音楽教育＞

・何と言っても合唱指導に造詣が深く、学校の授業、部活動を通して大分県の合唱レベルアップに貢献なさいました。合唱コンクールでは常に大分県一位を占め、県代表として九州大会に毎年のように出場したことを思い出します。

・先生の好きな合唱曲の一つのヘンデル作曲メサイア（救世主）をよく歌わされ、意味もわからないドイツ語でがむしゃらに暗譜させられたこと。随分厳しかったなあ。

・今日のようなコピー時代でなかったので、楽譜を作るのに苦労されたようで、空き時間はいつもガリ版に向っておられました。貴重なそれらの楽譜は今でも大切に保存しています。

・元来先生はピアノ専攻でしたので、大学受験指導にも優秀な手腕を発揮され、教えを受けて東京芸大をはじめ、その他の音楽系大学に進学した人は数えきれないほど多く、優秀な音楽家、音楽教育者を育てられました。

・よくお太りでしたので、夏の合唱練習時には必ずガーゼのハンカチを２枚用意され、汗を拭き拭きで、時には注射を打ちながらのファイトぶりに驚きました。

・「よい音楽教師がいなければよい子供は育たない」とよく言われ、音楽大学に行くよりも、教育学部に行って立派な音楽教師になりなさいと勧めていらしたようです。よい音楽教師を育てることを最大の目的として本当に努力なさってた姿が思い出されます。

・いつもにこにこしていらっしゃった先生が、こと音楽の指導になると、決して妥協せず、時として怖いこともあり、音楽することの厳しさと、美の追求への真摯な態度を教えて頂いたことが、皆の思い出の一致するところでした。

＜人　　柄＞

・妹の清先生とお二人で、大変仲良く大分市中島六条におられましたが、清先生が心優しく静かなお人柄に対して、恵先生は動的で、ファイト満々で豪傑タイプでした。

・家を訪れた人々と一緒に食事をなさるのが好きで、会話の節々に人生論や精神訓話、また神への「感謝」する心の大切さなど影響大でありました。

・牧師の家庭に育った先生もやはり熱心で敬虔なクリスチャンで、大分に教会ができるまでは、自宅を開放され、伝道に尽くされ、大分バプテスト教会のオルガニスト、執務役員などを自らなさり同教会の礎となられました。

・教え子の喜怒哀楽は即先生の喜怒哀楽となるほど教え子を大切にし、ことに祝事は自分の事のように泣いて喜ぶ感動家でした。

・時刻、時間には随分厳しくて、レッスンに遅れると叱られるし、遅れまいとタクシーで行くともったいないと叱られました。

・教えることに骨身を惜しまず、信じたことは多少強引でもやりぬくという信念の人で、素晴らしいお人柄でした。

＜社会的業績＞

・多忙な学校教育者としての傍ら、昭和25年教え子達の要請により市民合唱団ウィステリア・コールを結成主宰し、多くの人々と共に合唱音楽の美を求めて、その指導にあたられました。このウィステリア・コールは、創立以来毎年定期演奏会を行ない、市民の多くのファンに支えられ、先生の亡くなられた後も、脈々と続き、今年で第27回目の定期演奏会を開く安定、定着した活動をしています。

・この合唱団もいつしか外に目を向けるようになり、一昨年全日本合唱コンクール西部大会において見事金賞を得、沈滞する大分の合唱界に〃活〃を入れたことは特筆に値するといえましょう。

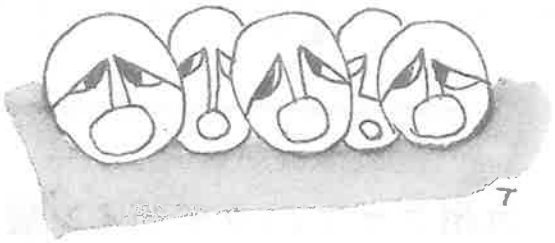
・昭和33年、長年の音楽教育者としての業績に対して、音楽部門初の大分合同新聞文化賞が贈られました。

・昭和39年、第1回大分県芸術祭において、大曲「森の歌」の全曲演奏を指導、指揮をなされました。

・先生の業績の最大は、やはり音楽教育者の育成にあったといえます。県内の音楽教育者の多くの人々をはじめ、全国に教えを受けた人達が音楽教育に携わり活躍していることをみてもわかります。

・本当に先生は偉大な音楽家、教育者、クリスチャンでありました。私達は先生から教えを受けたことの喜びを感じると同時に、少しでも先生のお姿に近づくよう精進する覚悟でおります。

先生、安らかにおやすみ下さい。



出席者（敬称略、あいうえお順）

飯倉貞子・辛島光義・土谷正公・挟間文男
福本幾男・松尾英一・宮本　修・油布洋水

二つの追悼音楽会

◦故 藤沼恵先生追悼演奏会

と　き　昭和54年5月25日（金）PM6：30
ところ　大分県立芸術会館

◦藤沼恵没後10周年記念
ウイステリア・コール第27回定期演奏会

と　き　昭和54年6月8日（金）PM6・30
ところ　大分文化会館

「短歌と私」

「八雲」「アララギ」会員　長門　はる子

ことごとに相容れざれば争ひて夕冷たき裏庭に出づ

少女時代の私の最初の歌。大分合同新聞は当時は大分新聞と称され、土屋文明選があった。恐る恐る応募して採られた歌である。

理解のある父だったが国文科に学ぶことは許してくれなかった。短歌を選択科目に採りたかったが必修科目とかちあった。短歌の教授茅野雅子先生の優雅な黒紋付羽織姿を垣間見るだけでも楽しかった。

開業医の父は昭和十二年二月一日急逝した。初めて死に直面した。この悲を短歌に託した。その歌に目をとめ今日迄指導して下さっているのは東京の学校の先輩八雲主宰の田吹繁子先生である。

長門は昭和の初期七高在学中、医者であり歌人の斎藤茂吉先生に憧れ、そうなりたい願いを抱きアララギに入会、茂吉選を受けた。九大医学部時代は同好の学生と九大医学部年刊歌集を発刊した。昭和八年海軍軍医に任官以来断続、東京で終戦、やがて職業軍人故の追放、昭和二十三年佐伯に帰って亡き父の医院を再興。アララギの先輩小谷稚一氏に励まされ、四十四年五月七日急逝するまでアララギに学んだ。

海軍を愛した茂吉先生は戦地の長門に軍事郵便を下さった。又昭和二十七年古稀自祝と記すお歌を賜った。

山脈が波動をなせる美しさただに白しと歌ひけるかも　　茂吉

その翌年二十八年二月二十五日茂吉先生はお亡くなりになった。先生御在世中御許を乞ひ、アララギ歌人茂吉門下の大塚九二生医学博士のお勧めで庭に茂吉歌碑を建てた。父、夫、母と失ったが茂吉歌碑は残り声なき声ありの感です。

最近昭和万葉集巻六第一回の配本がありました。

みごもりし吾が妻は何しをるならむザンボアンガを過ぎつつ思ふ

長門莫の歌一首が掲った。歌は永遠の生命、亡き後もその叫びは脈々と伝る。私も生命ある限り苦しみつつも歌いつづけたい。

[redacted]

九州グラフィックデザイン展を終えて

大分県宣伝美術協会長
大分県芸振会議・理事　波多野　義孝

3月20日から25日まで、県立芸術会館で第8回九州グラフィックデザイン展が開かれた。

この展覧会は現在九州各県の第一線でプロとして活躍中のグラフィックデザイナーの作品を 150点展示したものでいわば九州のデザイン水準を知るうえで、またとない機会として各方面より好評をいただいた。

この展覧会に県下から会員の部に楠忍（大分市）、美濃世治（大分市）、波多野義孝（大分市）、一般の部に、天野ともお（大分市・九州文化協会賞）、佐藤邦生（大分市・大分県知事賞）、古谷利典が出品し入選、入賞した。

今回の大きな作品傾向として、従来の九州的な作品がかげをひそめ、新しい感覚の芽の台頭が強く感じられたことである。かつての九州での作品展といえば、おきまりコースのように、観光ポスターが圧倒的な数を占め、九州イコール観光ポスターといわれた一時代もあり、ローカルカラーといわれた、絵画的手法によるどろどろした作品が多かった。ところが一昨年ぐらいから徐々にこれらの姿が消えはじめた。その主因はなんといっても豊かな情報量を背景にして作家自身、発想、志向の転換を迫られていることも無視できない。

会員の中にあって大いに気をはいている20代の若い数名のめざましい活躍ぶりは将来が楽しみであり、また一般の部の上位入賞作品にみられた執ようなまでに追究したエネルギーにはすがすがしいものを感じた。

この展覧会も回を重ねるごとに、充実の度を増してきた。何よりうれしいことは、この会を土壌にして若い将来のスターがのびのびと大きく育ってきていることである。県下からもどしどし本展に出品挑戦し、大分県のグラフィックデザイナーの底力を大いに示してほしいものである。

[redacted]

《れんさい》 豊後水道の文芸 その2

葛港と「源叔父」

大分大学教授　佐々木　均太郎

佐伯湾は豊後水道唯一の良港である。葛港がその基点となっている。国木田独歩は処女作「源叔父」を明治三十八年八月、「文芸倶楽部」に発表。その舞台となっているのがこの葛港である。独歩が佐伯の鶴谷学館の英語教師として赴任してきたのは明治二十六年九月末、秋色すでに濃くなったころであった。独歩は宇品港から四国三津浜経由、そこから佐伯行の汽船に乗りこの葛港にあがった。「源叔父」は、独歩が佐伯にいた時に接した薄幸の二人物―「源おじ」と「紀州」という乞食の少年とを結びつけ、紀州の家出、源叔父の縊死という悲劇の結末に終わる哀調深い名作である。主人公の源叔父は、この葛港の一隅に住み大入島の渡海船（おろし）の船頭であった。当時の葛港を独歩はこの作品の中で次のように描いている。

「此港は佐伯町に恰好（ふさわし）かるべし。見給ふ如く家といふ家幾ばくありや。人数は二十にも足らざるべく、淋しさは何時も今宵の如し。されど源叔父が家一軒ただ此磯に立ちし其以前の寂しさを想ひ給へ。かれが家の横なる松、今は幅広き道路の傍に立ちて夏は涼しき蔭を旅人に借せど十余年の昔は沖より波寄せて節々其根方を洗ひぬ。」

明治十年から二十年代にかけての葛港の情景がほうふつとする。独歩は、佐伯を去る最後の一か月をこの葛港辺の鎌田旅館で過している。源叔父の身上話もこの下宿鎌田の夫婦から聞いたものと思われる。独歩の「欺かざるの記」に二十七年七月二十三日「昨夜雨あり。今日雨あり。人再生の思ひあり。昨夜涼風に乗じて宿処の主人等と語る。夜更けて雨をききつつ一文を草しぬ」とある。宿処の主人鎌田夫婦から聞いた老船頭源叔父の覚え書きを夜更けて記したと推測される。いずれにしても、文豪独歩の処女作の中心舞台が豊後水道に面した葛港であったことは郷土文芸として意義が深い。

―つづく―

地域文化　院内町

教育文化祭をふりかえって

第１回院内町教育文化祭が昨年11月10日～12日まで３日間にわたって、多くの町民の参加のもと、華やかに盛大に開催されました。

第１日目は、中央公民館で書道・絵画・工芸・手芸・生花・菊花・盆栽などが会場いっぱいに展示され、初日だけで約700名の観覧者を集めた。 さらに茶道会場では、天気に恵まれて、野だても催され、多くの参会者を迎えて会員は大変な忙しさでありました。

一方、開発センターでは、文化財展と短歌会が行なわれ、いずれも盛況でした。

第２日目は、院内中学校体育館が主会場となり、午前中小中学生による「話し方大会」が行なわれ、子供たちが真剣に述べる姿に会場の人々は盛んな拍手を送っていました。

午後は「素人のど自慢大会」が開催され、幼児から老人までの35組が出演、約1,200名の声援の中、 次々と自慢ののどが披露され、大変楽しく盛会でした。

最終日の午前中は、日頃練習を重ねた芸能関係の発表会が催され、洋楽、邦楽、詩吟、舞踊など沢山の芸術の香り高い演技が披露されました。

午後は将棋九段の内藤国雄先生による文化記念講演会が開催され、「人生を語る」と題しての先生のユーモアと熱弁に一同聴きほれ、文化祭の最後を飾るにふさわしい素晴らしいものでした。

この３日間で、多くの人々がともに語らい、笑い、涙した「心のふれあい」は、ひとときではありましたが、心に残る文化祭であったに違いありません。

[redacted]

文化ニュース

◦昭和54年度九州地区文化振興会議が５月30日（水）～31日（木）の二日間長崎市で開催されます。

芸術文化団体の育成・地域文化活動の振興・舞台芸術をはじめ歴史・民俗・美術工芸・建造物・地方文化行政の部会がもたれます。

参加対象は、行政・施設職員ならびに芸術文化団体の関係者です。

◦本年度九州芸術祭文学賞贈呈式が２月28日（水）12：00～16：00福岡市の西日本新聞会館で行なわれました。

九州各県市からの受賞者10名が出席。今回の最優秀作は長崎の佐藤光子さん「賄賂」でした。なお大分県からは地区優秀作として挟間町の矢野正一氏「彼岸過ぎて」が賞を受けました。

このあと九州各県事務担当者による実行委員会が行なわれ、昭和54年度事業として実施する事業は「九州文学賞作品公募」「九州グラフィックデザイン展」を内定しました。時期は例年どおりです。ふるって応募して下さい。

◦第３回全国高校総合文化祭実行委員会事務局・部会合同会議（第３回）が、２月21日（水）９：30～16：00総合庁舎74会議室で行なわれました。

これは、８月１日からの全国大会にそなえ、県教育委員会・県高文連の企画・調整等を目的とした会議です。

訂　　正

会報〃芸振〃No.41（54.１）の７頁右下の写真紹介文に県民オペラ「カルメン」とあるのは誤まりで、「フィガロの結婚」が正しいので筆者加藤公康先生をはじめ皆様にお詫びして訂正させて頂きます。

＜芸振だより＞

◦昭和53年度県芸術文化振興会議臨時総会が３月７日(水)13時30分から県婦人会館で開催されました。

臨時総会は「芸術文化基金」に主題をしぼり行なわれ、審議の結果、目標を３億円とし、数年計画で募金。

３億円を一度に募金することは困難なので、第１次として１億円を昭54・55・56の３年間に亘り募金することになりました。県芸振会議が募金活動の主体となって推進するとともに、当面昭和54年度は、県芸振会議は600万円を募金することと満場一致決議しました。

また、この臨時総会に先だち、２月26日（月）13：30から理事会・２月20日（火）13：30から会長・副会長等による会議を同会館で行ないました。何れも県芸術文化基金についての審議でした。

◦大分県文化年鑑と会報〃芸振〃の編集会議ならびに事務局会議を、２月14日(水)・２月26日(日)・３月７日(水)に婦人会館で行ないました。

◦県芸振会議会員の九州貨幣史学会（代表者橋詰武彦氏・大分市）が「九州貨幣史６号」（Ｂ５ 170頁）の労作を編集発行しました。

管楽器の専門店
技術の
アンドー楽器
大分交響楽団事務局
大分県吹奏楽連盟事務局
大分県職場音楽連盟事務局
〒870 大分市都町３丁目5－13
(ジャグル公園北電通り)　TEL 33－1627